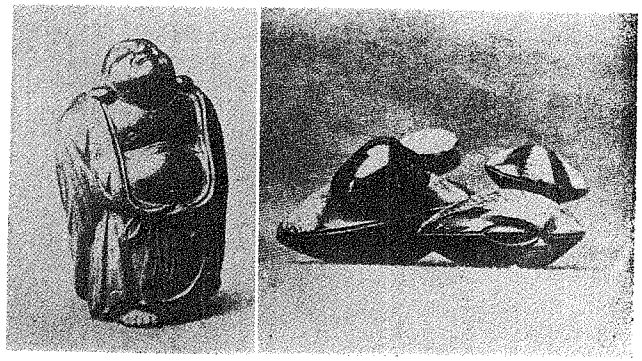
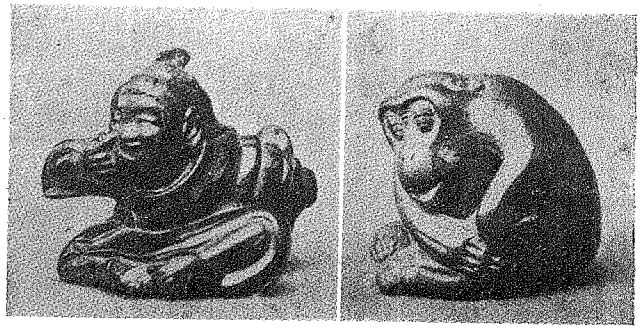
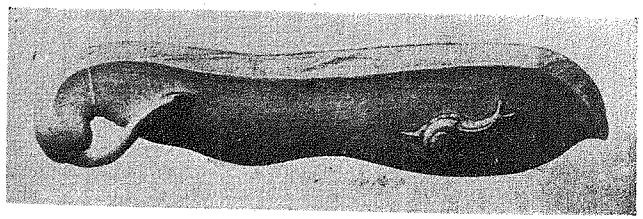


龍珪作 蛤 根付　　同人作 布袋根付



三輪作 猿 根付　　同人作 小兒反眶根付



懷玉齊作 刀豆根付

はしがき

日本人が理智的國民でなくて感情的國民だといふことは、われひとともに許してゐることだと思ふ。日本人に理論的頭腦がないといふのではないけれども、一般に言つて決して理窟ぽい國民ではない。日本人も臥薪嘗膽で隨分頑張ることもあるけれども、それは冷靜な打算計畫によつて著々と所期の目的に進むといつたやうな意志の力ではない。さうでなくて多くの場合日本人を頑張らすのは感情に裏附けされた意志であるやうだ。これを非難する人は、日本人は一時的にくわつとするだけで持久力がない、などといふ。然しまあさう巧利的にばかり見たものでもあるまい。さういふ日本人の性情はたしかに美しいものであるだけでなく、長い眼で見れば吾々に不利ばかり招いてゐるとは決して言へた義理でない。感情のうつくしさは何といつてもわが國民の誇つてよい長所に違ひない。

これに同感出來る人は、吾々の國民性とか、日本精神とか、日本文化の特質とかを、藝

術日本の姿に於て探究しようといふ試みに同感されるであらうと思ふ。藝術こそ先づ感情の具象化であるから、吾々日本人の眞の姿を表現してゐるのでないか、而もそれは偏頗なイデオロギーなしにである。

ところで世間では藝術とは特別高尚なもので一般人のかゝはるところでないといふやうな考があると思ふ。他方藝術愛好者の中には西洋の事情に通じて、西洋人の方が遙かに藝術に關心をもつてゐる、藝術國と西洋人によつて見做されてゐる我日本に於て、却つて藝術に無關心な人が多い、と憤慨する者もある。これらは確かに事實である。然しこれには我藝術の特異性にその原因があるのである。この原因はこの本全體が說明するのであるが、一口にいへばかういふ事情である。西洋では文化の中で藝術がかなり明確に限界されてゐるのに、我國では藝術が一般文化のうちに融合した狀態にある。その結果、西洋人は藝術に關與せぬ生活をするときは、その生活はひどく殺風景になつて多くの人は堪へられないことになる。それが我國の場合はいかに藝術に無關心な人の生活といつても、決して藝術と絕緣した生活は出來ない。西洋の生活にくらべると、藝術的うるほひが隅々まで行き亙つてゐるのである。そこで藝術に無關心に暮すといふことが容易に出來る。それゆゑ西洋人が吾々日本人より少くとも表面上藝術に關心を持つてゐる者が多いやうに見えるのではあるまいか。この事情がすべてでないにしても有力なものであると思ふ。この特殊事情が他面から言へば、日本文化のうちに棲息してゐる限り日本人たる者は藝術に絕緣して生活し得ないことを意味してゐる。こゝに日本文化の自覺を强めるには、藝術日本の探究が、先に述べた便宜上からだけでなく實質上必須の事になつて來る。それでまたこの本を單に藝術愛好の諸士だけでなく、廣く一般讀書界に提供したいのである。

以上の理由から私はこの本の編輯に特別の顧慮を拂つて、平素藝術に疎い諸士にも成丈け入り易くする工夫をした。さうして卷頭にさういつた人達を前にして話した講習會の速記を置いて、それから繪畫、彫刻、建築、音樂、茶道などの特殊問題で前の一般論を一さう具體的な實例によつて論證した。さうして卷尾にまた第一篇と根本思想を同じうしながら、それを違つた方面から理論を一さう整へて述べたものを置いて今一度全體を纏めようとした。それでこの論文集の全體の構造は恰も作曲の形式のやうに到る處に主題や副主題

が響いて、外見上違つたものも克く見るとやはりそのヴリエーションだつたりするかも知れない。

集めた論文は私の主著「日本藝術様式の研究」に達するまでの行程とそれ以後のものに亙つてゐるので二十年ばかりの長年月の間の産物の中から適當なものを選んだので、いづれも講演放送雜誌等の形式で發表したものである。

著者がこゝに特筆すべき義務があるのは、附錄の「日本藝術の民族的特色」は文部省の藏版でもとの思想局で「思想小輯」の一篇として教育界の諸方面に頒布され、恐らく現在の教學局によつても頒布されてゐるのかと思ふが、今回本書の刊行にあたつて特に輯錄の許可を得たものである。

「茶の作法と現代生活」「茶室の美術的意義」の二篇は創元社版の茶道全集に輯錄されてゐるものだが、今度この集に加へることを快諾された次第である。

昭和十六年九月上旬

著者しるす

目次

日本藝術と日本精神……三
日本畫の本質……七七
南畫の本質……八九
わが人形文化の特異性……一〇五
根付について……一二九
茶の作法と現代生活……一四九
茶室の美術的意義……一八九
日本音樂の將來……二一一
附
日本藝術の民族的特色……二三三

寫眞目次

一　大雅筆五百羅漢
二　明兆筆五百羅漢
三　蕪村筆鈴山高隱圖
四　雪舟筆虎溪三笑圖
五　ナウムブルク寺院裝飾彫像
六　天兒、御伽這子、絲雛、紙雛
七　光琳筆小袖の模樣
八　根付數種

藝術日本の探究

日本藝術と日本精神

藝術による日本精神の研究

東洋文庫

日本藝術とは何でせうか、ちよつと考へると判り切つてゐるやうにも思ひますが、又よく考へて見るとなか〳〵難しい問題ではつきりいへない。「藝術」といふ語が第一ほんたうの日本語であるかどうか疑問であると思ふ、今は無論日本語になつてゐますが、もとがほんたうの日本語であるかどうか。藝術と並んで美術といふ語があります。これは明かに飜譯語でありまして、英語の Fine Arts（ファインアーツ）にあたります。これは今普通世界に用ひてゐる用法では大體眼に愬へる藝術例へば繪畫、彫刻、建築、工藝美術などをいつて、音樂を美術といふと普通妙に思はれ、また文學を美術の中に入れることも普通變に思はれる。さうしますと彫刻、繪畫、建築に工藝を加へた四つが大體普通美術と考へられてゐるのであらうと思ひます。それに對して藝術と云ふ語は極く普通に

東洋文庫図書
133465
JUL 12. 1961
蔵書

使つてゐるのでは、例へば文學、演劇に舞踏、音樂も廣く包括して行きたい時の名稱と世間の人は考へて居るらしい。ところで「藝術」と云ふ言葉は飜譯語であるかどうかこの點は私もはつきりしませぬが、昔から日本では「藝」と云ふ言葉と「術」といふ言葉はあつた、その藝と術とを一緒にした藝術といふ樣な言葉の使ひ方は明治以前にはなかつたと思ひます。「藝は身を助ける」と云ふ樣なことを言ひ、その他藝道と云ふ樣な言葉の使ひ方はあつたでせうが、藝術と云ふことはなかつたと思ひます。

支那では藝術と云ふ言葉を古くから使つてゐるやうであります。そこから來たのではないかとも思ひます。然し支那で「藝術」と云ふのは、日本でいふ「術」と殆んど同じでありまして、あらゆる技巧を要するやうな業が總て藝術といはれてゐます。美術といふやうな意味には用ひてゐないのです。從つて「藝術」は言葉そのものは支那から借りて來たかも知れないが、矢張り西洋の言葉が背後にあるのであらうと考へられる。西洋ではその點は昔から日本と違ひまして、美術なり藝術なりに關する學問が古くから發達して、ギリシヤの昔からその學問さへあつたといつて宜しい。ギリシヤの哲學者プラトンとアリストーテレスはかういふことに就いての學問的議論をした最初の人でありまして、從つて人間界のさういふ美に關する現象が學問的に取扱はれて、後世に現はれるのに二つの傾向がそこに見えてゐまして、プラトンの方はどちらかといふと後世の美學的傾向を持つてゐる。美といふものは必ずしも今いふ藝術に於てのみならず、廣く自然界にもあるし、人間の道德的行爲にもある。この「美」の概念が哲學的になり、後世の美學といふ學問の源になつた。アリストーテレスといふ人はプラトンの弟子で矢張りプラトンの說に基礎を置いて自分の說を說いたのでありますけれども、それが現在では完全なる文獻が殘つてゐないのでありまして、假に文學だけに關するやうな標題「詩學」がついてゐますあの斷片は美術の一般について論じたものであります。これで見ますとアリストーテレスの說き方は、美術なる現象に局限して說いてゐるやうな傾向があります。それで今日の藝術史的研究或は藝術學といふやうな名前の研究はその流を引いてゐるやうに考へて宜しいのであります。從つて定義がはつきりしてゐて、どういふものが藝術でどういふものが美術か、廣い意味に於ての區別ははつきり判つてゐる。さういふ理論的方面だけが判つてゐるといふだけでなく、藝術と文化との關係が割合にはつきりと判つてゐます。それを一言で要點を申上げますと、藝術を除いての文化といふものは皆實際的の目的を持つてゐる、實際生活に直接關聯した目的を持つてゐる。然し美術、藝術といふ方面は自分自身だけが目的でありまして、立派な繪を畫くのは繪が出來るといふ事が目的でありまして、美的情操を誘發される繪に依つて何かの宣傳をしようといふのではなく、道德的に修養の助けにしようといふのでもなくて、美術自身が目的なのであります。さういふ建前は一般の文化の中で

美に關する文化卽ち藝術と、他の文化との限界をはつきりして他の文化が雜るのを阻止する傾向があるのであります。かういふのが西洋の藝術で、日本の藝術とは著しい違ひがある點だと思ひます。我國では藝術に對してさういふ態度は持たなかつたと思はれるのであります。我國では一般の文化といふものと、藝術といふものと果して區別が出來るかどうか、それは相當疑問であると思ふ。西洋で皆さうやつてゐるから、我國でも出來ると簡單に考へて居りますけれども、然し克く我國の藝術、美術の樣子を見ますとこの點が西洋と同じだといへるでせうか。今までそれを全く問題にしないでやつて來たのでありますけれども、これは重大な問題であらうと思ふ。

もし我國でも昔から文化のうちに「美術」の範圍が確立してゐたのなら、第一言葉がなければならぬのにそれを表はす言葉がない。昔から繪なら繪、彫刻なら彫刻、建築なら建築といふ言葉がありますけれども、さういふものを包括して言ひ表はす言葉がない。西洋の藝術とか美術とかに相當する言葉がなかつた。この事實が既に我國では西洋流でいふ美の世界、人間が人工的に作り出す美の世界を日常生活の世界と區別して考へてゐないことを語つてゐると思ひます。それだから日本の藝術とは何かと云ふ問題がなか〳〵さう簡單に答へられないのであります。これは日本固有の藝術の事をちよつとお考へになれば直ぐ判るのであります。よく問題になることですが、例へば書道は藝術であるかどうかといふことになると簡單には答へられません。昔から書と畫とは同じものであるといはれて居りますが、書と畫とを引離してしまつて畫だけが藝術であつて、書は藝術でないと言ひ切つて宜しいでせうか。西洋にも文字を練習する、美しく書くといふ術はあるのでありますが、西洋には書道といふ考へはないのであつて習字があるだけである。どうして西洋で書を美術と認めないかといふと書の文字は目的を持つて居る。文字は人の意思を通するといふ實際的な目的を持つてゐる。唯文字の形、筆致だけを見て樂んでゐるのではなくて、文字に現はれてある意味が同時に働きかけて來なければならぬ。さうなると先刻いつたやうな關係から「純粹の美術といふことは出來ない」とはつきり解決が附く。然しさう云ふ論法で決めて行くと吾々が當然藝術と考へて居るものがどし〳〵除外されて行かなければならぬ事になつて來る。

次にいはゆる「日本精神」とは何か。ほんたうの意味で日本精神と云つて居るのは何か。「これも日本精神である」「あれも日本精神である」といはれてゐますけれども、然し日本精神がどういふものであるかを引きくるめてはつきりいつた人がないやうです。ところでこの言葉の起つた由來を考へて見ますと、滿洲事變の爲に日本が國際聯盟を脫退した前後邊りから日本精神といふ言葉が起つて來たやうです。聯盟の總會で日本と歐羅巴の世界とが明かに對立してゐた。そこでどうしても日本は反省せざるを得ないやうになつた。それまでは唯西洋文明には先輩として尊敬し倣ふべきものだといふ態度で學んで來た。さういふものを向側に廻して國際聯盟の會議でだ

けでも對立したといふ事實が餘程國民の反省を促して國民的自覺といふものが起つて來た。昔からある言葉としては大和魂とか、大和心と言つてゐたが、然し大和魂は立派なものでありますけれども、大和魂といふことだけでは思想的內容が乏しい、日本人的意氣といふやうな意味に主として使はれてゐたのであるから、大和魂を以て思想的內容を豐にもたせようといふことは無理であると思ひます。そこで西洋文明に對立して日本精神といふ。「精神」といふと思想的內容が含められるから、日本精神といふ言葉を使ひ出したのであらうと思ひます。然しそれならば日本精神とはどういふ思想內容であるかといふことになると簡單には片附かない。吾々何となしに日本精神といへば判つてゐるやうな氣がします。大體心持では無論判つてゐますが、さてかうかう言ふものだといつて見ると、矢張り十分ぴつしり當嵌つたやうな感じはしません。然し日本精神といふことを包括的に大きく考へると、日本精神といひ、日本文化といひ、たゞ大和魂式の意氣といふやうなものでなくて日本精神と言ひ換へたゞけの思想內容を持つたものをいはうとするのだから、日本精神は日本文化と關聯して考へなければならぬと思はれます。それはどう考へたら宜しいか。私の愚見を言つて見ますと、日本文化のやうなものを作り上げた精神に他ならない。日本精神があつてかういふ特色ある我國の文化が出來た、大和魂といふやうな一時的に作用するものでなく、日本建國以來日本文化をどし〳〵發達せしめた精神が、日本精神である。一言でいへといへば私はかう言つたら先づ非難はないと思ふ。勿論日本文化には非常に廣いのですから總てが入つてゐる。さういふものを作り上げたのは日本精神が絕えず働いてゐたからであります。日本精神と日本文化の關係をかう考へて日本精神の包括的な解釋をしてみた譯であります。

そこで「日本精神を如何にして藝術の中に探求し得るか、又日本精神が他の精神文化よりも藝術に於て正確に突止め得らるゝこと」を概觀して見まするとと、上述の意味に日本精神といふものを解しまして、さて日本精神の細目について、どういふ風なものが日本精神を現はしてゐるかを考へるに當つて、一般の思想的のもので示さうとすれば種々困難がある。勿論日本古來の文獻の古い所を採つて行けば割合非難はないでせうが、「古事記」や「日本書紀」にしても「古事記」の方は未だ宜しいが、日本書記になると餘程支那の思想が入つてゐる、といふ非難があるでせう。またこんな文獻だけで日本精神を云々してゐるのでは、日本精神の根源の說明としてはよいとしても、今日迄の文化の全體を構成して來た日本精神としてそれではどうしても不十分であります。その文獻が出來た時代の特殊事情が非常に働いてゐまして、それがその儘文獻の中に採り入れられ、直接影響を及ぼしてゐる。さういふ點が藝術の現象になりますると、藝術はその表現手段に於ては殊に支那、印度等の影響を絕えず受けてゐますけれども、藝術といふものは、感情を現はすものでありますから、どうしても日本人的の性情が、初めの中は模倣をやつて蔽はれてゐても、

次第に現はれて來ない譯には行かない。そこで我國に固有のものがはつきりと見易いのであります。それが支那の學問をその儘採つて來た漢學の研究といふやうなものであつては、何といつてもそれは支那で發達したものですから、いくら日本の漢學といつても支那の權威に引摺られて行かざるを得ない。どうしても問題が起つて來る。これをどう解決したら宜しいかといふと、權威である支那まで參照して、支那の偉い學者がかういつてゐるからといふことになつて來る。藝術で見ましても、例へば室町時代に主として入つて來た墨繪は、支那から入つて來たもので支那が權威といへば權威ですが、然し墨繪等に於ても日本でやつてゐるとどうしても日本的なものが出來て來る。その粉本にしても支那の見たことのない景色をお手本にして墨繪の技術を用ひてゐては、矢張り日本の景色も畫いて見たくなるし、日本の情調を表現する繪を畫いて見たくなる。內容なども全然日本的になつて來る。どこまでが支那のものであつて、何處までが日本のものであるといふやうなことは具體的な形を持つて現はれてゐない。かういふ大陸渡來の藝術の範圍でもさうでありますから、況してその他のもの、例へば大衆を相手にする演劇のやうなものになると問題なしに元來は支那から來たといつた所でそれは歷史的にはさういふことはいへるが、現在殘つてゐる能樂だの歌舞伎だのといふ樣なものは支那の影響も加つてゐるものであるといふ樣なことを感ずるさへ困難なことである、全く日本のものである。さういふ風にして、日本的性情がどうしても出て來ない譯には行かない。このほかに思想的に文獻の具合の惡い點を申しますると、思想的の表現法といふものは、これが日本の固有の表現法だといふことが困難であります。漢學が早くから入りまして、その爲に御承知の通り維新までは理窟ぽい理論的なものと云ふと殆んど皆漢文で表はされてゐるといふ狀態でありまして、それを賀茂眞淵、本居宣長といふやうな人が出て日本的議論の仕方を創造はしてゐますけれども、大體に於てどうしても支那の方が議論の仕方が發達してゐる。それを模倣してやられたのですが、それは墨繪を採入れたと云ふ樣な譯には行かない。墨繪は技術的に比較的局限されて考へられるけれども、理論の行き方はなか〳〵切り離せない、どうしても支那の影響から脫し難い。思想的なものは文獻で言葉の上に表はすとはつきり決つて終ふ。思想的にきちんと決つて終ふともう種々な解釋といつてもさう言葉で現はした以上自由に解釋することは出來ない。それが藝術的文學であれば可成り種々なる解釋が出來ます。その最も著しい例を擧げますと、古事記でせうが、この意味に於て古事記は日本文學の生粹であるといふことが出來るでせう。ところが文學的著作と違つて思想をその儘いひ表はさうと言つたものでははつきり決つて終ふ。さういふ點が藝術の場合は文學でも今申上げた通りさういふことがはつきりと決らないで、感情的な方面から輪郭は決るけれどもその思想的內容が確定しないで行くのです。かういふ點は日本人的性情を汲むのに比較的便利であります。

日本精神を如何にして藝術の中に探求し得るかといふことは、日本だけをみてゐると容易に特長を掴めない。こゝに比較研究の必要がある。これには西洋のものが殊に宜しい。支那のものも用ひられないことはないけれども、支那のものよりも西洋のものは何と云つても先刻申した樣に全然藝術文化の建前が違つて居るから、對照が著しいのです。對照によつて我國の藝術の特質が浮立つて來るといふことがあると思ひます。私は大體かういふ標準によつて日本の藝術を問題にして、日本の誰某の藝術を問題にするのではないのですから、かういふことが非常に有效な方法であると思ひます。これから申上げることはかういふ立場に立つてゐる譯であります。

藝術と外來文化

目下のやうな國粹主義の思想が盛んな時代には、國粹思想と云ふものは愛國心等と密接に關聯してゐますから、ともすれば感情的になり易い。ちよつと行過ぎると極端に走ることがよくある のであります。殊に日本の現狀で申しますと日本精神といふやうに日本人が自覺して自分の國を省み、自分の文化を省る狀態になりますと、誰でも純粹に日本的なものとは何であるかといふことを問題にするのは當然のことで結構であります。然し現代の日本でもさういふ人許りではありません。これに反對の考への人もありまして、好んで皮肉に見、日本的のものといつて一體何がある？　これも支那、これも西洋からこれも印度からではないか、日本的なものといつて何があると言ふ風に、日本國民でありながら日本文化に對して一種の皮肉な態度を持つて自ら快しとしてゐるやうな人もあるやうであります。さういふ立場は皮肉なばかりでなく、眞面目に考へてどうしてさういふ考へが起るのでせう、これは一つの誤解がその中にあるのだと思ひます。誤解と申しますのは純粹の日本文化といふものは外國の影響を少しも受けないで日本の土地に生えたもの、日本人だけが考へ出したものと考へてゐるのであります。然し何處の國に實際果してさういふものがあるでせうか。これは日本文化に限らぬと思ふのです。例へば今の歐羅巴の一等國といはれる國を悉く考へてもイギリスの文化にしても全く外國の影響を受けないで、イギリスの土地の生粹の文化と稱し得るものがあるでせうか。イギリス、ドイツ、フランス等の國に於てもそれぞれ國是がありその特色はあります。卽ちイギリスでなければないやうな品物はありますけれども、然し十分に文化といはれるに足りる現象であつて、ギリシヤ、ローマの文化の影響の下に立つてゐないものがあるでせうか。またローマの文化でギリシヤの文化の影響を受けないものがあるでせうか。又ギリシヤ文化と云つてもアラビアの文化を基として發展したものであります。吾吾はさう無限に古い歷史を遡つて行けないから、かういふ風にいへばどの國だつてその國固有の